

令和7年度（2025年度）

兵庫県立大学大学院環境人間学研究科
博士前期課程（B日程）
学生募集要項

一般選抜

特別選抜（社会人）

特別選抜（外国人）

【連絡先】

〒670-0092

姫路市新在家本町1-1-12

兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課

電話 (079) 292-1513

FAX (079) 292-1530

問い合わせ受付時間 平日9:00～17:00

目 次

ページ

I. 令和7年度4月入学募集要項 1～5

- 1 募集人員
- 2 出願資格及び条件
- 3 出願受付期間
- 4 出願手続
- 5 選抜方法
- 6 学力試験・口述試験日程等
- 7 合格発表
- 8 入学料及び授業料
- 9 入学手続
- 10 注意事項
- 11 不測の事態について

(参考)

- ・ 出願手続に必要な書類等一覧
- ・ 出願資格認定について
- ・ 長期履修制度について

II. 環境人間学研究科（博士前期課程）教員表 6～9

【出願手続に関する提出書類等】

- ① 入学願書 (様式1)
- ② 博士前期課程における研究計画書 (様式2)
- ③ 承諾書（一般・外国人） (様式3)
- ④ 承諾書（社会人） (様式4)
- ⑤ 出願資格認定審査申請書 (様式5)
- ⑥ 研究・活動報告書（その1） (様式6)
- ⑦ 研究・活動報告書（その2） (様式7)
- ⑧ 研究・活動内容確認書 (様式8)

【その他】

試験会場案内図

教育ポリシー（大学院環境人間学研究科博士前期課程） 抜粋

1. 育成する人材像

環境人間学研究科では、次のような人材を育成することを目指す。

- ① 環境と人間に関する学際的、融合的なアプローチを通じて、新たな環境創造を担う
高度な識見と、環境に関する諸問題を体系的・総合的に分析・解明できる研究力を有する人材
- ② 人間学の基本に立ちながら、21 世紀の自然環境、科学技術、地域社会、人間、あるいはその関係性はどうあるべきかという視点で考究し、社会のニーズに応える高度な専門知識と問題発見能力を備えた人材

2. アドミッション・ポリシー

- ①入学前に必要な能力や適性など
(博士前期課程)

＜求める学生像＞

- 1) 環境に関する諸問題に関心を持ち、専門職業人としての基礎的な学問を学び、研究を行う意欲がある人
- 2) 環境に関する諸問題に対して、より広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって、体系的な問題発見・分析能力、および技術を身に着けることを目指している人
- 3) 環境に関する諸問題に対応する方策を具体的に考察し、知的好奇心を持って積極的・活動的に取り組む行動力がある人
- 4) 環境と人間との相互作用として、人間の健康や文化の多様性を探求し、環境共生社会の実現に向けた具体的な方策を考えようとしている人

＜アドミッション・ポリシー＞

- 1) 知識・技能
出身学部、職場などで学んできた、社会のニーズに応える高度な専門的知識と問題発見能力を駆使して、現代社会が抱える様々な課題を、解決する体系的・総合的に分析・解明できる能力を有する人
- 2) 思考力・判断力・表現力
出身学部で深めた学識や社会人としての経験や仕事を通して、環境人間学の大切さを認識し、その実践力を向上させていくための思考力、判断力、表現力を身に付けることができる人

3) 主体性・多様性・協働性

人間社会のニーズに応える諸課題の解決に対して、環境人間学を積極的に応用し、環境と人間に関する学際的、融合的なアプローチを通じてその方策を見出すために、主体性、多様性、協働性を身に付けることができる人

②入学後に求めること・持つべき目的、意欲など

(博士前期課程)

<求める学生像>

これらの分野で、次代を担う環境人間学に関する知識・技能の両者を複眼的に兼ね備え、環境共生社会の実現に質する学際的な研究や技術開発に主体的に貢献できる技術者、高度専門職業人及び研究者となるための勉学、研究意欲にあふれた人

③入学前に学習しておくことが期待される内容

(博士前期課程)

環境人間学研究科博士前期課程で学ぶために必要な学士課程卒業相当の基礎学力と、幅広い教養及び一定程度の専門性

④入学選抜における評価方法、その比重など

(博士前期課程)

本研究科では、国内外の大学で、理系学部のみでなく、文系学部で学士を取得した人、高等専門学校専攻科を修了した人、社会人として本研究科の研究課題と関係のある業務に携わってきた人など、広い分野からの学生を求めている。

本研究科では、入学者選抜の基本方針として、受験機会の複数化を保証し、本研究科の教育理念・目標に合致した学生の選抜を行っている。博士前期課程では、特別選抜（推薦）、一般選抜、特別選抜（社会人、外国人）などの選抜を実施している。入学者の選抜は、外国語運用能力、学力試験及び口述試験、面接、研究計画書など出願書類により、志願者の能力や資質に関する総合的な評価に基づき、熱意と可能性を有する多彩な人材の選抜を実施している。

I. 令和7年度大学院環境人間学研究科博士前期課程の学生を次のとおり募集する。

(令和7年4月入学)

B日程	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
1 募集人員	環境人間学専攻 A・B日程合わせて20名程度	環境人間学専攻 若干名	環境人間学専攻 若干名
2 出願資格及び条件	(1)出願資格 次の各号のいずれかに該当する者 ① 大学を卒業した者及び2025年3月31日までに卒業見込みの者 ② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2025年3月31日までに授与される見込みの者 ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2025年3月31日までに授与される見込みの者 ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑧ 文部科学大臣の指定した者（2025年3月31日までに該当する見込みの者を含む。） ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者 ⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者 ⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者 ⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までに22歳に達した者	(1)出願資格 本学環境人間学研究科指導教員の推薦があった者で、2025年4月1日現在において24歳以上で2年以上の勤務経験又は社会経験を有し、その経験を大学院での研究水準において深化させることを目指す者で、次の各号のいずれかに該当する者 ① 大学を卒業した者及び2025年3月31日までに卒業見込みの者 ② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2025年3月31日までに授与される見込みの者 ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2025年3月31日までに授与される見込みの者 ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑧ 文部科学大臣の指定した者（2025年3月31日までに該当する見込みの者を含む。） ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者 ⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者 ⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者 ⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	(1)出願資格 日本国籍を有しない者で、次の各号のいずれかに該当し、入学後「留学」の在留資格が取得できる者、かつ、公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」N2以上、又は独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」200点以上を取得した者 ① 大学を卒業した者及び2025年3月31日までに卒業見込みの者 ② 学校教育法第104条第7項により学士の学位を授与された者及び2025年3月31日までに授与される見込みの者 ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑤ 我が国において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2025年3月31日までに授与される見込みの者 ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者 ⑧ 文部科学大臣の指定した者（2025年3月31日までに該当する見込みの者を含む。） ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者 ⑩ 大学に3年以上在学した者で、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者 ⑪ 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において、所定の単位を優秀な成績で修得したものと認めた者 ⑫ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までに22歳に達した者

	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜（外国人）
2 出願資格及び条件	⑨～⑫に該当する者は、出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。 ＊この試験は外国人学生、帰国子女を含む。	社会人として出願する者はすべて出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。	⑨～⑫に該当する者は、出願前に本研究科の出願資格認定の事前審査を行うので、4ページ（出願資格認定について）を読んで手続すること。 [日本留学試験に関する指定条件] 2023年度の第1回・第2回、2024年度の第1回のいずれか1回の受験をしていること。（受験科目は「日本語」）
	(2) 出願条件 出願者は、 希望する研究指導教員とあらかじめ協議の上、出願 すること。日本に在住しない外国人が出願するにあたっては、諸々の手続（出願、受験、入学、入国等）について、希望する研究指導教員と入念に事前打ち合わせを行うこと。		
3 出願受付期間	令和7年1月16日（木）から令和7年1月24日（金）まで（必着） 受付時間：平日の午前9時30分から午後4時まで。土曜・日曜・祝日は受け付けない。		
4 出願手続	下記の書類等に入学査料30,000円（ゆうちょ銀行又は郵便局が令和7年1月4日以降に振出した「普通為替証書」によること。ただし、証書には何も記入しないこと）を添えて兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課に提出する。		
	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2） ③ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3） ④ TOEIC、TOEFL-iBT（Home editionを除く。出願スコアは、Test Data Scoreのみ認め、My Best Scoreは認めない。）のうちいずれかをあらかじめ会場受験した上で、その成績証明書（公式認定証）のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が令和4年1月24日～令和7年1月24日までのもの。） ⑤ 外国人留学生は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2）その他あれば研究業績論文 ③ 英文による研究計画書（様式2に準じたもの） ④ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式4） ⑤ 外国人は、住民票（在留資格、在留期間の記載されたもの）	① 入学願書（本学所定の様式1） ② 研究計画書（本学所定の様式2） ③ 研究指導教員の承諾書（本学所定の様式3） ④ TOEIC、TOEFL-iBT（Home editionを除く。出願スコアは、Test Data Scoreのみ認め、My Best Scoreは認めない。）のうちいずれかをあらかじめ会場受験した上で、その成績証明書（公式認定証）のコピー（成績証明書の有効期限は、願書提出期限日から3年以内とする。すなわち、証明書発行日が令和4年1月24日～令和7年1月24日までのもの。） ⑤ 日本語能力認定書のコピー又は日本留学試験成績証明書のコピー
（共通） ・出身大学の卒業証明書（卒業見込証明書）又は学位授与証明書及び成績証明書（和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。） ・受験票返送用封筒（長形3号封筒に410円分切手を貼付。ただし、願書提出期限の翌日以降に学務課に受験票を取りに来る者は不要）（封筒には住所、氏名を記載し、「速達」と朱書きすること。） ＊事前審査の際に提出した書類は提出しなくてよい。			
5 選抜方法	入学者の選抜は、学力試験、口述試験及び出願書類を総合評価して行う。 英語においては最低基準点を設けることがある。		
6 学力試験口述試験日程等	(1) 日時・試験科目 令和7年2月27日（木） ・専門科目（小論文形式） 10:00 ～ 11:30 ・口述試験 13:00 ～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 （注）外国語（英語）試験の代わりに外部試験を使用する。TOEIC又はTOEFLのスコアを研究科独自の換算基準により換算し、外国語（英語）の得点とする。 ＊受験生はあらかじめ受験しておくこと。	(1) 日時・試験科目 令和7年2月27日（木） ・専門科目（小論文形式） 10:00 ～ 11:30 ・口述試験 13:00 ～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 （注）外国語（英語）試験は課さない。	(1) 日時・試験科目 令和7年2月27日（木） ・専門科目（小論文形式） 10:00 ～ 11:30 ・口述試験 13:00 ～ 専門科目は小論文形式で、環境人間学についての理解力、読解力、分析力、思考力、論述力等を問う出題とする。 口述試験は博士前期課程の研究に関する5分程度のプレゼンテーションを含む。 （注）外国語（英語）試験の代わりに外部試験を使用する。TOEIC又はTOEFLのスコアを研究科独自の換算基準により換算し、外国語（英語）の得点とする。 ＊受験生はあらかじめ受験しておくこと。
	(2) 学力試験及び口述試験会場 姫路市新在家本町1丁目1番12号 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス （詳細については、当日、F棟前に掲示する）		
7 合格発表	令和7年3月3日（月）午後2時 兵庫県立大学環境人間学部・研究科のホームページ（ http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html ）に掲示するとともに、合格者には郵便により通知する。 なお、電話による問い合わせには応じない。		

8 入学料及び授業料

(令和6年4月1日現在)

区分		入学手続時 (令和7年3月)	令和7年5月	令和7年10月	計
入学料	甲 (県内)	282,000円	—	—	282,000円
	乙 (県外)	423,000円	—	—	423,000円
授業料	博士前期課程	—	267,900円	267,900円	535,800円
諸経費	本大学卒業生	24,000円	—	—	24,000円
	他大学卒業生	66,000円	—	—	66,000円

(1) 上記のうち、県内はア～エのいずれかに該当する者で、県外はそれ以外の者

ア. 入学の日(令和7年4月1日)の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する者

イ. 配偶者又は1親等の親族が、入学の日の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する者

ウ. 入学する者が、本学学部から引き続き大学院に入学する場合

エ. 特別選抜(外国人)入試により入学する場合

(2) 入学料及び授業料の額や徴収方法等は、兵庫県公立大学法人授業料等に関する規程によります。なお当該規程の改正により、入学料及び授業料の額や徴収方法等が変更される場合があります。

9 入学手続

手続期間 令和7年3月上旬(手続書類は合格通知書と合わせて郵送します)

10 注意事項

(1) 口述試験に含まれる「プレゼンテーション」について

プレゼンテーションの内容は、博士前期課程の研究に関することで、時間は5分程度とし、原則としてパソコン(以下、PC)を使用して実施してください。

試験当日に発表用のデータが入ったUSBメモリを持参し、そのデータを用いてプレゼンテーションを行ってください。試験開始前に、作動確認を行います。

データはオフラインで発表できる内容で作成してください。トラブルが起きた場合を想定し、プレゼン資料を紙に印刷して持参したり、自分のPCを持参したりして、各自で対策をとるようにしてください。

PCは原則大学が用意したPC(Windows11, PowerPoint2016)を使用していただきますが、トラブルが発生した場合は持参したPCの使用を認めます。

(2) 出願者は、希望する研究指導教員とあらかじめ協議の上、出願してください。

(3) 出願書類等を郵送する場合は、封筒に「博士前期課程出願書類在中」と朱書きして、簡易書留で郵便局の窓口から発送してください。(締切当日必着)

送付先: 〒670-0092 姫路市新在家本町1丁目1-12 兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス学務課

(4) 納付された入学考査料は、返還しません。

(5) 授業はすべて日本語で行われるので、外国人学生で日本語の能力が十分でない者は、日本語の予備教育を受けておくことが望ましい。外国人学生は、在学中の学費・生活費等について、自ら責任を持って準備してください。

(6) 障がいがある者等への配慮

入学を志願する者で、障がいや有する者等、受験及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある者は、学務課にあらかじめ電話でお問合せください。

所定の相談申請書(医師の診断書等を添付)が提出された後、配慮内容等を決定します。必要な場合は志願者又はその立場を代弁する出身学校関係者等と面談を行います。相談申請書提出期限は令和6年12月27日(金)16時までです。

※上記期限を超えた場合であっても、ご事情があれば相談を受付けます。

11 不測の事態(交通機関の乱れ、災害発生等)について

(1) 試験当日、台風や地震等不測の事態により交通機関が途絶したり遅延した場合、状況によっては試験時間を繰り下げたり、試験日を変更するなどの措置をとることがあります。

(2) そのような事態が発生したときは、午前8時以降環境人間学部のホームページ上に掲載します。
(<http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html>)

(3) 問い合わせは姫路環境人間キャンパス学務課(TEL 079-292-1513)までお願いします。

参考 出願手続に必要な書類等一覧

	一般選抜	特別選抜 (社会人)	特別選抜 (外国人)
(1) 入学願書	○ (様式1)	○ (様式1)	○ (様式1)
(2) 研究計画書	○ (様式2)	○ (様式2)	○ (様式2)
(3) 研究計画書 (英文)	—	○ (様式2に準じたもの)	—
(4) 研究指導教員の承諾書	○ (様式3)	○ (様式4) ※出願資格認定 審査で提出	○ (様式3)
(5) 住民票	外国人	外国人	—
(6) TOEIC又はTOEFL-iBT(Home editionを除く。)成績証明書のコピー	○	—	○
(7) 日本語能力認定書のコピー又は日本 留学試験成績証明書のコピー	—	—	○
(8) 出身大学の卒業(見込) 証明書及び成 績証明書	○	○	○

出願資格認定について

(1) 事前審査

一般選抜の出願資格⑨～⑫、特別選抜(外国人)の出願資格⑨～⑫に該当する者及び特別選抜(社会人)が出願する場合は、出願に先立ち出願資格認定審査を実施する。

下記の書類を希望する研究指導教員に提出し、あらかじめ協議し審査を受けた上で、令和7年1月6日(月)～1月9日(木)(土・日・祝日を除く)までに、姫路環境人間キャンパス学務課まで提出すること。郵送の場合は、簡易書留郵便(締切当日必着)とし、封筒に「博士前期課程出願資格事前審査書類在中」と朱書きすること。

- ・ 出願資格認定審査申請書(本学所定の様式5)
- ・ 本学環境人間学研究科指導教員の承諾書(社会人学生のみ、本学所定の様式4)
- ・ 卒業証明書(最終出身学校)※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 成績証明書(最終出身学校)※和文又は英文以外の証明書は、和文訳を添付すること。
- ・ 研究・活動報告書(その1)(本学所定の様式6)
- ・ 研究・活動報告書(その2)(本学所定の様式7)
- ・ 研究・活動内容確認書(本学所定の様式8)
- ・ 審査結果通知用封筒(長形3号封筒に速達郵便使用切手410円分を貼り、返送先の住所・氏名を記入し、「速達」と朱書きしたもの)

(2) 出願手続出願資格認定の審査結果は文書で令和7年1月15日(水)までに本人あて通知する。認定された者は、願書受付期間中に所定の書類を整え提出し、出願手続をとること。

(2ページ参照)

長期履修制度について

(1) 趣 旨

この制度は、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）では大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象とし、事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができる。

(2) 対象となる学生

長期履修を申請することができる学生は、本学に在学する者及び入学する予定の者のうち、次のいずれかに該当する者である。

ア 定まった職業を有する者（自営業及びフルタイムの有職者と同等の勤務状況にあると認められる臨時雇用を含む）

イ 家事、育児、介護等を行う必要のある者

ウ 障がいのある者

エ その他長期履修が必要となる特別な理由があると認められる者

(3) 申請手続

長期履修を希望する学生は、入学手続後、指導教員に相談の上、次のア、イ、ウの書類を、
姫路環境人間キャンパス学務課へ提出すること。

ア 長期履修許可願（様式第1号）（添付省略）

イ 長期履修計画書（様式第2号）（添付省略）

ウ 証明書類

① 会社等に勤務する者は、所属長の在職証明書

② 家事、育児、介護等に従事している者は、家事、育児、介護等に従事していることの
証明書又は申立書

③ 障がいがあることを証明するもの

④ 本人の健康状態を理由として申請する者は、医師の診断書

⑤ その他研究科長が提出を求める書類

(4) 長期履修を認める期間

長期履修を認める期間（以下「長期履修期間」という）は、博士前期課程にあつては3年以上4年まで、博士後期課程にあつては4年以上6年までであつて、その期間は1年単位である。

(5) 長期履修期間の変更

長期履修を許可された者（以下「長期履修者」という）が対象に該当しなくなった場合は、次年度から履修期間を当該課程の修業年限等に変更することを申し出ること。

長期履修期間の短縮は、3月修了予定者については、短縮により修了することとなる年度の11月1日から11月末日まで、また、9月修了予定者については、短縮により修了することとなる年度の5月1日から5月末日までに、長期履修期間の延長は、4月入学者については、延長により修了することとなる年度の11月1日から11月末日まで、10月入学者については、延長により修了することとなる年度の5月1日から5月末日まで（いずれも、最終日が休日の場合、その翌日）に長期履修期間変更申請書（様式第3号）を学務課に提出すること。長期履修期間の変更は、当該課程において、1回限りである。

なお、長期履修期間を短縮する場合は、短縮が認められるときに短縮に係る授業料の差額が必要となる。

(6) 長期履修制度に係る授業料

兵庫県立大学授業料等に関する規程で定められた大学の授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修期間の年数で除した額とする。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合は再計算される。

$$\text{長期履修者の年間の授業料} = \frac{\text{通常の授業料} \times \text{標準修業年限}}{\text{長期履修期間の年数}}$$

Ⅱ. 環境人間学研究科(博士前期課程)教員表

*印は、研究指導教員

(令和6年4月1日現在)

部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
Ⅰ 人 間 環 境 部 門	* 有満 秀幸	微生物学	食の安全性を脅かすヒトや家畜の病原菌の病原因子に関する研究、微生物の有効利用に関する研究	生命環境特論
	石坂 朱里	食品機能学	野菜や果物に含まれるフラボノイドの生体内動態と生理機能性に関する研究	食品科学特論
	* 伊藤 美紀子	臨床栄養学、代謝栄養学	栄養が強く関わる疾患の予防・改善を目指した栄養療法のエビデンス探索。特に腎疾患、サルコペニアに関する研究。はりま姫路総合医療センターとの共同研究も実施予定。	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 乾 美紀	多文化共生教育、マイノリティの教育	文化的に多様な背景を持つマイノリティの子どもたちの教育問題と教育支援に関する研究	多文化共生教育特論
	* 井上 靖子	臨床心理学、分析心理学	心の諸問題に対する深層心理学的分析及びイメージ、からだ、想像力を手がかりとした心理臨床実践研究。	臨床心理学特論
	* 内田 勇人	小児保健学、老年学	子どもの発達と健康、若年者・高齢者に対するヘルスプロモーションに関する研究	健康発達特論
	* 尾崎 公子	教育学	学校づくりとまちづくりの両観点を踏まえた地域教育政策に関する研究	地域教育政策特論
	* 加藤 陽二	生化学、食品化学	老化や疾病に深く関連した「活性酸素」による生体傷害の機構解明とその予防	生命環境特論
	* 金子 一郎	分子制御栄養学、ビタミン学	各ライフステージや生活環境における栄養素の消化吸収、代謝、排泄の変化と分子メカニズムに関する研究。健康長寿のための栄養学研究。	生命環境特論
	喜友名 菜織	民事法学、家族法	日独の親子法、とりわけ未成年養子制度に関する研究	家族法特論
	小村 智美	微生物学、免疫栄養学	モデル生物を用いた抗老化作用に寄与する食品因子の探索と機序解明	生命環境特論
	* 坂本 薫	食物学、調理学	調理・食品加工における食味向上に関する研究、および食生活・食文化にかかわる調査研究	食品科学特論、臨床食環境栄養特論
	島田 良子	調理学、栄養生理学	食品の物性・嗜好性に関する研究、難消化性成分の機能性に関する研究	ライフステージ栄養学特論
	* 高橋 綾子	アメリカ文学、アメリカ文化、環境文学	アメリカ文学・文化における環境と人間に関わる研究、アメリカ現代詩研究、環境文学研究	アメリカ研究特論
	* 竹内 和雄	生徒指導	学校における具体的な生徒指導事案について、実践をベースに考察	生徒指導実践特論
	田中 更沙	臨床栄養学、代謝栄養学	ミネラルが生体に及ぼす影響の研究、特にリフィーディングシンドロームに関する研究	実践栄養学特論
	* 寺西 雅之	文体論、英語教育・学習論	文体論を活用した文学・言語・コミュニケーション研究及び英語教育	環境英語表現特別演習

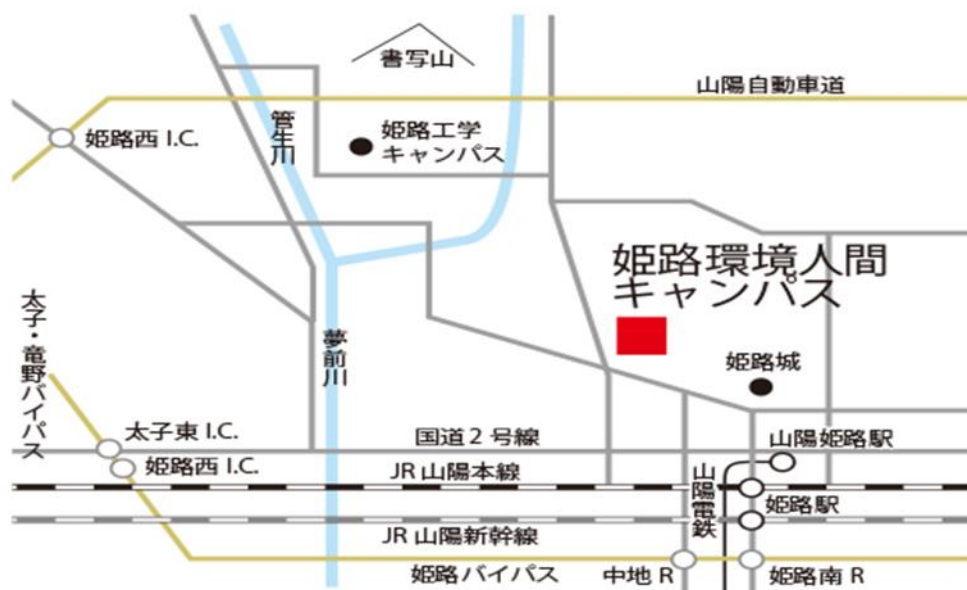
部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
I 人間環境部門	* 鄭 成	歴史学・異文化交流	現代中国の対外交流史、知識人の精神史	比較言語・文化特論
	* 中出 麻紀子	公衆栄養学	成人の食習慣に関する調査研究、食環境整備に関する研究	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
	* 永井 成美	栄養教育、栄養生理学	食教育プログラム・教材の開発と評価に関する研究 食事と健康に関する栄養生理学的研究	ライフステージ栄養学特論
	柳楽 有里	アメリカ文学、アメリカ文化	アメリカ文学作品に描かれる人種・ジェンダー・階級から読み解くアメリカ文化の研究	英語圏文化研究特論
	西村 洋平	哲学・倫理学	西洋古代の哲学・倫理学の研究と、それに基づいて現代の社会問題や人間のあり方について考察	人間学特論
	* 野村 健	生物物理学、運動生理学	機械受容チャネルのゲーティング機構に関する研究 体力測定機器の開発及びトレーニング効果に関する研究	トレーニング特論
	半澤 史聡	栄養生化学、時間栄養学	摂食タイミングと末梢組織の時計・代謝に関する研究	ライフステージ栄養学特論
	保坂 裕子	生涯発達心理学、文化歴史的活動理論	子どもの発達に関わる活動システムに関する研究	生涯発達心理学特論
	* 村上 明	食品機能学	植物由来の生理機能性成分（ファイトケミカル）の作用分子メカニズムに関する研究	食品科学特論
	* 森 寿仁	運動生理学、トレーニング科学	子ども～アスリート～高齢者における効果的な健康・スポーツトレーニング方法の開発	生涯スポーツ教育特論
	山口 裕毅	教育哲学・教育思想史	教育の倫理性に関する研究、英国における教育実践に関する調査研究	教育原論特論
	* 吉田 優	臨床栄養学、代謝栄養学	オミックス解析を用いた炎症性疾患、代謝性疾患の病態解明ならびに新規治療法の確立	実践栄養学特論、臨床食環境栄養特論
II 社会環境部門	* 吉村 美紀	食品プロセス科学、食品物性	食品の物性と嗜好性、食品のテクスチャー・コントロール、高齢者用食品と増粘多糖類のレオロジーの研究	食品科学特論、臨床食環境栄養特論
	* 井関 崇博	社会学	環境・組織・文化のプロモーションにおけるメディア制作・運営・戦略に関する研究	環境社会学特論
	* 宇高 雄志	住宅計画	アジアにおける人間居住と生活空間のデザイン	住宅計画特論
	* 内平 隆之	居住デザイン・集落居住	地域の居住可能性を豊かにするデザイン及びプロジェクトの実践に関する研究	地域プロジェクト特論
	* 宇野 康司	地質学	中生代以降の東アジアにおける地球環境変遷	環境動態解析学特論
	* 太田 尚孝	都市計画学	わが国の持続可能な都市の発展に資する計画制度や計画技術、プランナーのあり方に関する研究	都市計画特論

部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
Ⅱ 社会環境部門	* 大橋 瑞江	森林生態学	森林生態系を構成する生物・非生物要因の相互作用、人間活動と森林の環境形成機能との関わりを研究する	森林生態学特論
	* 奥 勇一郎	応用気象学	温暖化気候における台風等の極端気象およびその影響評価に関する研究、衛星リモートセンシングによるヒートアイランド現象に関する観測的研究	大気科学特論
	* 糟屋 美千子	言語社会学、メディア・ディスコース分析	メディア・ディスコースが現代社会の維持・変容に与える影響、及びその分析手法についての研究	言語社会分析特論
	風間 健宏	水圏環境学	ため池など小規模湖沼の水質や物質循環、生物生産に関する諸課題に対し、化学・生物プロセスを切り口とした研究	水圏環境学特論
	* 木村 敏文	画像工学、生態画像解析	昆虫を対象とした行動解析支援プログラム開発	環境画像解析特論
	* 木村 玲欧	防災心理学、防災教育学	災害・防災をテーマにした、安全・安心な社会環境を実現するための心理・行動、社会システム研究	防災心理・行動科学特論
	荘所 直哉	建築構造学、木質構造	木質構造の耐震性に関係する実験的研究ならびに耐震設計法の構築に向けた研究	建築防災学特論
	* 杉山 武志	人文地理学	地域コミュニティの創造に向けた社会経済地理学的研究	地域コミュニティ特論
	* 竹端 寛	福祉社会学	福祉現場における脱施設化や脱管理・支配、権利擁護とエンパワメント、持続可能な地域福祉のあり方、およびオープンダイアログや対話的文化に関する研究	福祉社会学特論
	* 中桐 斉之	生態情報学	モデリングとシミュレーションによる生物環境問題や社会問題に関する研究、携帯端末によるユーザインターフェースの研究	生態情報学特論
	* 中罵 一憲	環境経済学	環境経済モデルによる政策評価のためのシミュレーション分析、および環境評価手法による環境の経済的価値評価に関する研究	環境経済・政策特論
	増原 直樹	環境政策論	地方自治体における環境関連条例・計画の策定プロセス分析、およびSDGsをはじめとする指標を用いた資源ネクサス（連環）解析に関する研究	環境経済・政策特論
	* 水上 優	建築論・建築設計学	建築設計行為における思索と制作の連関に関する建築論的研究	建築・インテリア設計特論
	* 三田村 哲哉	建築史・意匠学	建築史において高評を得た秀作を通して、建築美を生み出す造形原理を解明する研究	建築意匠特論
	* 三宅 康成	農村計画学・農業土木学	農山村地域における農村計画手法の開発・提案、および土地利用、都市・農村交流に関する研究	農村計画特論
	* 安枝 英俊	建築計画学	少子高齢社会・ストック型社会・環境配慮型社会に対応した建築計画に関する研究	建築計画特論
Ⅲ	* 赤澤 宏樹	緑地計画学・造園学	緑環境や暮らしの表出を中心とした景観づくり、公園を中心としたまちづくりを通じた、人と自然が共生する環境創出の実践・研究	ランドスケープ計画特論
	* 池田 忠広	古爬虫両棲類学	小型爬虫両生類（カエル・トカゲ・ヘビ）の現生種、ならびに化石を対象とした骨学及び分類学的研究	古生物学特論

部門	教 員 名	専門分野	研 究 内 容	担当科目名
Ⅲ 共生 博物 部門	* 石田 弘明	植生学、 保全生態学	森林群落、特に人間との関わり深い照葉樹林、ブナ林、里山林の生物多様性とその保全・再生に関する研究	植生学特別演習
	* 大平 和弘	環境計画学・ 造園学	人と自然がうまく調和した地域固有の風景を保全・創成するための、景観づくりやまちづくりの計画・マネジメントに関する実践と研究	ランドスケープ保全 特論
	* 栗山 武夫	保全生態学、 景観生態学	哺乳類（おもにイノシシ・アライグマ）の分布拡大や在来生態系への影響に関する研究	個体群生態学特論・ 野生動物管理フィール ド特別演習
	* 黒田 有寿茂	植物生態学、 植生学、保全 生態学	植物の生活史特性や生育環境特性、植生の組成・構造とその多様性の要因、生物多様性に配慮した植物の保全や植生の管理・再生手法などについて研究する。	植物生態学特論
	* 高木 俊	個体群生態 学、群集生態 学	陸上の動物（おもに哺乳類・節足動物）を対象に、個体数や分布の時空間的変動および生物間の相互作用のパターンとプロセスについて研究する。	個体群生態学特論
	* 高田 知紀	合意形成学、 地域計画論、 風土論	社会的合意形成の理論と技術、市民プロジェクトの推進とそのマネジメント手法、風土性に根ざした地域計画および地域マネジメント	国土空間学特論
	* 高橋 鉄美	魚類学、進化 生態学	淡水魚類を中心に、その生態や形態の多様性を進化学的な視点から研究する。また、集団遺伝の手法を用いた保全に関する研究も行う。	進化生態学特論
	* 高野 温子	植物分類学、 送粉生態学、	分子系統学や集団遺伝学の成果に基づく被子植物の分類体系の再整理や再構築、また虫媒花を中心とした送粉生態学的研究を行う。	植物分類学特論
	* 中濱 直之	保全遺伝学、保全生 態学、系統地理学、 群集生態学	絶滅危惧種の減少要因、また遺伝情報に配慮した保全手法について、フィールド調査や遺伝解析などの手法から研究する。	分子生態学特論
	* 廣瀬 孝太郎	地質学、古生物学、 第四紀層序学、環境 動態解析	地層中の微化石群集や化学組成を分析し、自然・人為の環境変動とそのメカニズムを明らかにする。	地球環境進化学特論
	* 藤木 大介	森林生態学	森林生態系管理に関する研究。特に、ニホンジカが森林生態系に及ぼしている影響の解明と森林生態系保全のための適切な管理のあり方についての研究。	保全生態学特論
	* 藤本 真里	都市計画学	地域コミュニティの活性化をめざしたマネジメントの方法論や手法について、公園や博物館など公共施設、地域における実践に基づき研究する。	まちづくり特論
	* 森光 由樹	保全遺伝学 野生動物医学	遺伝的多様性を把握するために必要な、サンプルの収集、DNA分析および解析、遺伝的多様性回復の方法など実践的な手法について研究する。	保全生態学特論
	* 山崎 健史	系統分類学、 生物地理学	主に節足動物を対象に、形態学的な観察、遺伝解析などを行い、種の多様性を整理し、多様性が創出され維持されてきたメカニズムを研究する。	種生物学特論
	* 山端 直人	農村計画学 農業政策学 アクションリサーチ 論	獣害や担い手減少などの農業・農村の問題を改善できる社会モデルの育成や、地域が主体的に対策を持続できる仕組みづくりを研究する。	野生動物管理フィールド特 別演習、ワイルドライフマネ ジメント特論
	* 山田 量崇	系統分類学、 昆虫学、多様 性生物学	昆虫を対象とした分類学的研究。比較形態観察に軸足を置き、形や機能を理解した上で、系統や進化の観点から研究する。	基礎昆虫学特論
	* 横山 真弓	野生動物管理 学	野生動物の健全な個体群を維持し、人との軋轢を低減するための野生動物の保全と管理を実施するための基盤となるモニタリング手法について演習する。	ワイルドライフマネジメン ト特論、野生動物管理フィー ルド特別演習
	* 頼末 武史	海洋生態学	海産無脊椎動物の幼生分散・着底機構に関する研究。海産外来種の分布拡大機構に関する研究。	海洋生物生態学特論

試験会場案内図

兵庫県立大学 姫路環境人間キャンパス

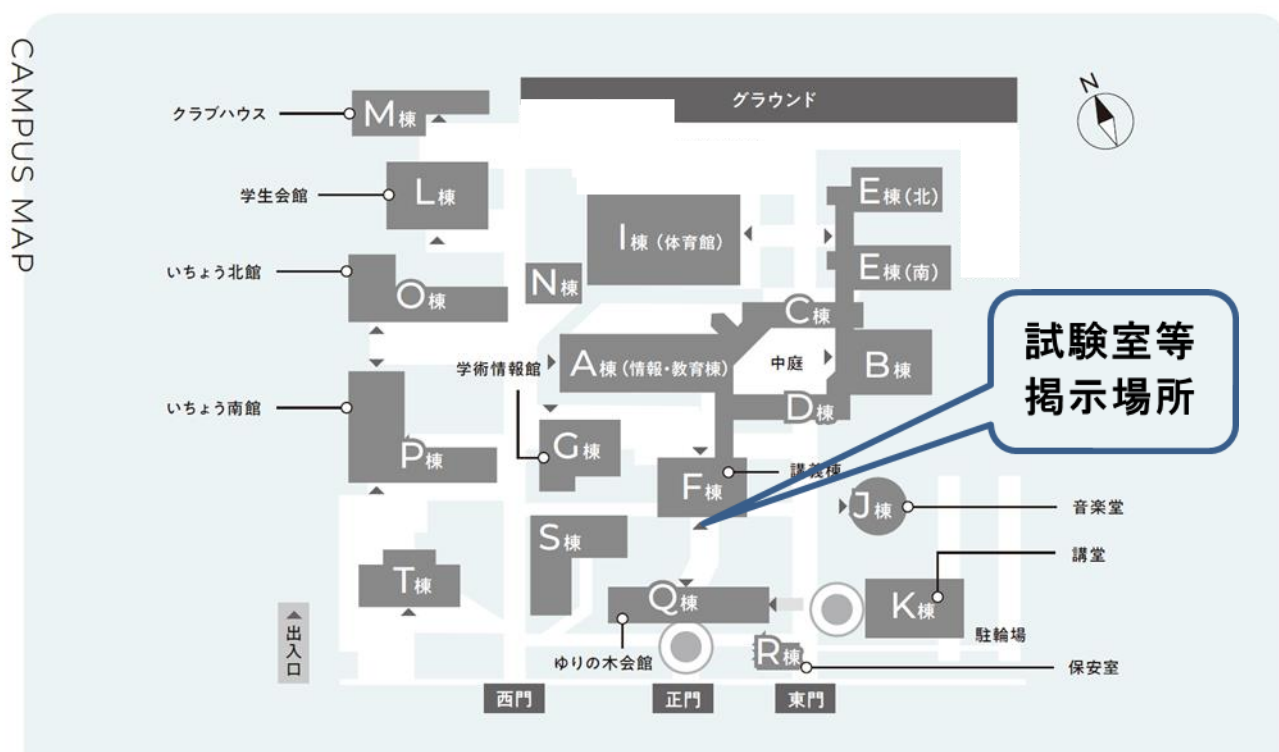


【交通】 姫路駅（J R・山陽電車）前の神姫バス 9 番・10 番乗り場から出発するバスは全て「県立大環境人間学部」を経由します。

※バスを利用する方は、姫路工学キャンパス行きのバスに乗らないように注意してください。

※タクシーを利用する方は、「新在家の環境人間学部」と告げて、姫路工学キャンパスでないことを明確に伝えてください。

キャンパス内建物配置図



兵庫県立大学大学院環境人間学研究科

ホームページ <http://www.u-hyogo.ac.jp/shse/koho/index.html>

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1丁目1番12号

TEL (079) 292-1513 (学務課直通)

FAX (079) 292-1530